

## 1. 第2回委員会の意見概要と対応について（資料1）への意見

多様な意見を活発に発言していただきました。現時点では、事務局としてはこの程度の応答になると思いますが、皆さんの意見を踏まえてさらに具体的な施策を考えてほしい。	内野委員
市民参加について：早い段階から、市民と一緒に、緑の質について議論し、協働し、行政ができない取り組みを、市民、民間にやっていってもらう仕組みづくりが必要だと思います。	田中委員
今回の改訂は、大改訂のはずですが、そのことが市民にも伝わるように骨太の方針を示してほしいと発言したはずですが、これが見えません。	蓑茂委員
「2. 計画の趣旨、緑の役割について」の伊東の意見の最後に、「計画の中において、グリーンインフラについて言及することにも繋がる。」を追加してください。（一番言いたかったことが省略されていたので）	伊東委員
・熊本市の歴史、文化、社会性、観光等、それぞれの地域の特色を活かせる配慮を行い、独自の計画を検討していただきたい。	岩佐委員
・熊本は、「森の都」といわれている。市の中心街に、四季折々の樹木や草花が鑑賞できる場所を作れないか。例として城彩苑。熊本城の復活ももう間近。その周辺に。	大川委員
緑の基本計画が、多様な当事者を想定したものとして、その方向性が見いだされている。この考え方を、各種施策に通底させた展開を期待したい。	澤委員
各委員の意見が随所に反映されていて、まとめるのに大変な時間を要したのではと思っています。ご苦労様でした。	河上委員

## 2. 熊本市緑の基本計画改訂 骨子案（資料2）への意見

<p>○緑の歴史：戦中戦後の市街地の状況や立田山の荒廃を記述し、その後の「森の都宣言」、立田山の環境保全林の整備、市街地のシンボルツリーとしての花畑公園のクスの養生など、森の都復活への緑化の取り組み・努力を強調した方がよい。</p> <p>○緑の役割の次の項目：熊本市の緑の構成概念図(現計画 p7) のようなものがあった方がよい。市民には必ずしも熊本市の緑の構成概念が理解されていない。緑の将来図とつなげるためにも効果的。</p> <p>○基本方針の4 (p 5) : ボランティア団体の把握とプラットフォームの設置を追加する。</p> <p>○施策の体系図 (p 6) : 配置を変える。原稿は4123の順になっている。</p> <p>○目標 (p 7) は誰もが理解しやすいものを検討して設置すること。</p>	内野委員
<p>「未来都市」とは何なのか、が気になりました。</p>	田中委員
<p>熊本市が全国で20番目の政令市になったことは大きな変化です。大都市近郊の政令市はともかく、そうでない地方都市の政令市となっているところとの緑の取組での比較に立った改訂作業になっているかが心配です。</p>	蓑茂委員
<p>Op.2上位関係計画の図中の関連計画に「街路樹再生計画」をいれてはどうでしょうか。「街路樹」は緑の基本計画から直接的にイメージできるキーワードだと思います。</p> <p>Op.4⑤河川の評価と課題の内容の整合をとる必要があるのではないのでしょうか。「利用や景観や通行に配慮した水辺環境」と「自然環境に配慮した水辺環境」は親水か生物生息環境か、どちらを優先するかの違いがあると思います。</p>	伊東委員
<p>○熊本市の「緑」の将来像については地図のみではなく、こういった姿を目指しているといった具体的なものを示さないと市民サイドに伝わらない。(p6)</p> <p>○日常生活、学校、企業活動、経済活動（主として商業）といったフェーズごとのイメージや地域（区や学校区など）ごとの特色を活かすイメージ作りが必要です。（次の段階でしょうか？）(p6)</p> <p>○道路や河川を「骨格となる水と緑のネットワーク」と位置付けることについて福岡などでの手法を参考としているのですが、市民レベルではとても分かりにくいです。道路は道路。河川は河川。公共交通軸と交通網も混同してしまいそうです。(p6)</p> <p>○都市公園と都市緑地の違いが市民にはわかりにくいです。(p6)</p> <p>○市民・事業者との協働による「緑化活動」の展開を掲げていますが、「緑の活用」も協働メニューとして重要です。(p6)</p> <p>○設定された目標と設定された緑化重点地区の評価のリンクが弱いと思いますが……。 (p7)</p> <p>○緑化重点地区として公共交通軸（道路）も設定していますが、「地区」と定義することには違和感があります。ここで設定している道路は幹線道路であって遊歩道としての役割は小さいので緑の投資効果を発揮できるのでしょうか？(p8)</p> <p>○交通軸として捉えるのであれば港線が抜けていると思います。繋ぐならば必要だと考えます。(p8)</p>	岩佐委員
<p>○《水と緑と心豊かな森の都くまもと》阿蘇の伏流水日本一おいしい「くまもとの水」も生かしてPR材料にしたらどうか。</p> <p>○緑化重点地区道路も設定してあるので、各沿線の道路の樹木の選別で○道路や△△道路等名称を付けた並木道を作ってはどうか。</p>	大川委員
<p>○緑の質とは何を指すのか、本計画における位置づけが伝わりにくい（不明瞭）。（量については端的に緑被率などであらわされている）</p> <p>○施策における、守る・育む・活かす・繋げるの結果、どのような状態・アメニティをもたらそうとしているのかについてのメッセージが必要。</p> <p>○5ページ 基本方針 「3-(3)緑地の特色を生かした緑を活用する」の表現が伝わりにくい。</p>	澤委員

<p>基本方針、施策体系を「守る」、「育む」、「活かす」、「繋げる」のキーワードで上手にまとめて工夫されている。折角の改定なので、前回よりも市民にとって、より身近で親しみやすく分かりやすいものに仕上げたい。</p>	<p>河上委員</p>
<p>どの計画も実現してほしいし、今からとても楽しみに感じています。コロナ禍で緑や公園に安らぎや楽しみを見出す人が増えて、新しい計画を作るチャンスだと思います。しかし、環境や緑というものに対して、社会が金銭的に余裕がなくなると最初に削られてしまいがちな面があるようにも思います。もしこれからコロナの影響で不景気になってしまった場合、予算などが減らされてしまわないように市民からの緑に対する要望や機運が高める必要がますます大切になると思っています。</p> <p>○「さまざまな機能を持つ緑の魅力づくり」について 自然や緑に対して、あまり関心が高くない人が新しい計画の内容にメリットを感じられるような具体的な記載、働きかけ、提案も必要だと思います。</p> <p>○「緑を支える人づくり・組織づくり」について これからは何でも行政に頼るのではなく、自分たちも協働して自分たちの街を作り上げるという姿勢が大切だと思います。一方、体が不自由であったり、時間に余裕がなく実際の作業に参加できない人たちが、肩身の狭い思いをしないような書きぶりもお願いしたいと思っています。</p> <p>○「緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出」について ちょっとした休憩を緑の中でしたいと思う人はとても多いです。私は京都出身ですが、京都の街なかには緑地、休憩スペースともにほぼありません。飲食店に入ってお金を使え、使わないなら河川敷に行けというメッセージだと思っていますが、ケチで嫌だなあとゲンナリします。こういう街づくりの態度は地元に住む人だけでなく、観光の人にもそのうちそっぽを向かれるはずです。熊本の街は住む人にも遊びに来る人にも安らぐ空間を提供する優しい街であってほしいと思います。施策体系案で「ふれあいベンチを設置した公園づくり」と書かれていて、楽しみにしています。商店街にある（現在は撤去されていますが）丸くて長居できなくなっているベンチは残念な気持ちになります。おそらくホームレスの方や若い子が長居しないようにしているのだと思いますが、長居している人は行き場がなくて困っている人であり、むしろ困っている人とコンタクトをとれる場としてポジティブにとらえてほしいです。福祉課等との連携のチャンスにしてほしいです。</p>	<p>福西委員</p>

### 3. 熊本市緑の基本計画改訂 施策体系案（資料3）への意見

<p>○体系3は、現基本計画に独立して取り上げていなかったものが、新規施策としてまとめて追加されていてわかりやすい。3-(3)に限らず、旧市街域だけでなく、全編にわたって新市街域にも広く目配りしてほしい。</p> <p>○体系4-2：町内会や個人などの住民による居住地域での活動(街路樹周りの清掃、除草など)の支援を追加してほしい。</p>	内野委員
<p>施策体系案4. 「緑を繋げる」の部分は、庁内連携以外にも、市民や民間企業との連携などが必要になってくると思われる。特に「教育」など、短期に成果のあげにくい事業を、どのように中期・長期計画の中に位置づけることができるのか、が大切だと思います。</p>	田中委員
<p>施策の体系なので、「あれもこれも」なのでしょうが、実効性あるものとするためには、どこかで「選択と集中」が必要になります。これが見えるように。新規施策が加わることは結構ですが、これまでやってきたことで整理することも考える必要があるのではないかと思います。</p>	蓑茂委員
<p>Op.4「(1)緑化意識の高揚」は市民に向けてだけではなく、道路や公園等の管理者に対する定期的な指導等も必要ではないでしょうか。</p>	伊東委員
<p>○施策体系案で示されている「施策」は「施策」というよりも個別の「事業」といった印象を受けました。(以下、「事業」と表現させていただきます。)</p> <p>○各体系案ごとに市役所の各課が行っている事業が列挙されていますが、あまりにも数が多く、これらを「緑の基本計画」という一つの政策体系においてコントロールしていくのは可能なのでしょうか？</p> <p>○事業を関連付けすることには賛成なのですが、事業の重要度は千差万別であり、優先順位などからメリハリをつけ事業体系を整理する必要があると思います。</p> <p>○施策としてもっと検討してほしいことは、公園などにおける経済活動の推奨。現状として緑を維持管理していくためのコストをどう確保していくのかも考えておく必要があります。さもなくば作ってしまって終わりということにもなりかねません。公園(緑の空間)で稼いで、それを原資(緑)に投資するといったフレームを構築していく必要があると思います。</p>	岩佐委員
<p>○熊本市には1,100以上の大小の公園がある。その中である程度の規模の公園の中に緑化活動をし、中央部を大きく空け、周囲に高い樹木や低木を植え、防災公園を兼ねる公園とする。そこ公園にも四季折々の低木の木々や草花を植える。</p> <p>○市街地の横断禁止道路にプランターに四季折々の草花を植えて、道路侵入への一助となれば。地域の小学校・中学校等に依頼できないか。市内の中心街にプランター花壇を。</p>	大川委員
<p>○骨子案においてゾーニングの考え方・指標が俯瞰されいないため、施策体系案におけるゾーニングアイコンに唐突感がある。別表(イメージ)のような総括表等で全体像を掴む必要がある。</p> <p>○施策によってもたらされるアウトカム=質的向上の方向性、市民生活へもたらされる効果(期待)を明らかにする。</p> <p>○4ページ(3)組織運営強化における計画推進体制として連絡協議会の設置が記述されているが、既存組織として機能しているか評価が必要。緑の質を向上させる考え方の元に、組織体の見直しを必要では。</p>	澤委員

<p>○施策体系案(3) <u>生物多様性に配慮した自然環境の保全</u>      施策①、②に具体的な例(喫緊の課題)があれば市民に分かり易いと思う。      例 ②オオキンケイギクやアライグマなど外来種対策の実施。</p> <p>○ 施策体系案2(1) <u>学校の緑化</u>      「地域の緑の拠点づくり」は、本市の学校経営・運営上外せない大切なキーワードの一つになっているので、「森の都の担い手となる子どもたちの教育の場として適切な学校緑化の推進に努め、地域の緑の拠点づくりを推進します。」という表現では？</p> <p>○ 施策体系案4(1) <u>緑化意識の高揚</u> ■環境緑化教育・学校における緑化活動の充実      環境緑化教育という「教育」は、学校現場になじめていない。従って、SDGsの視点、教員の働き方改革の観点からも次の表現では？      「子どもたちの豊かな感性を育むため、持続可能な緑化活動を保護者や地域等と連携し進めていきます。」      従って施策⑨は、「緑化意識高揚のための環境教育・緑化活動の充実」としたらいかが？      同様に緑化教育も一般化された語彙ではないと思うので      ⑦ 公園の樹木への樹名板や緑化教育のためのポスター・看板の設置 → 緑化教育を他の表現にした方がいいのではないか。      例 緑化活動のためのポスター or 緑化啓発のためのポスター</p>	河上委員
---	------

#### 4. 熊本市緑の基本計画 アンケート調査報告（資料4）への意見

<p>○アンケートの各項目について、年齢別・居住地別の要求・特性を詳細に分析することによって、その地域・年齢層に応じた施策がとれるかもしれない。</p>	<p>内野委員</p>
<p>特にありません。 ウィズ／ポストコロナ社会における、緑が卓越した公共空間のあるべき姿を市民と、SDGs的に議論していく場を設ける必要があると思いました。</p>	<p>田中委員</p>
<p>○アンケートの意味を十分考えて計画に組み込んでください。これを「参加のデザイン・計画」の一部としてきちんと扱うことです。区別の分析、郵送とWeb回答者のちがいなどなど。</p>	<p>蓑茂委員</p>
<p>○市民の緑に対する意識は高いと感じました。 ○協働に関する課題の一つは、市民団体の高齢化だと思います。この対策も必要だと感じました。</p>	<p>伊東委員</p>
<p>○このアンケートで特に興味を引くのは、「IX 自由意見」の中にあります。この中には市民の方々の緑に対する率直な意見が込められています。 例えばp41の江津湖公園内のドッグランの料金制、p42のマンション緑地の義務化など。</p>	<p>岩佐委員</p>
<p>○街路樹の中には、楠など道路路面から根コブになって盛り上がり、アスファルトを持ち上げ、通行に支障をきたす状態のものがある。植え替えが必要か。 ○公園の緑化を維持するには、高木等の剪定や枝下ろし等の作業が一般ではできない。各土木センターでは多忙もあり、予算の面でできていない。</p>	<p>大川委員</p>
<p>○グリーンインフラについての認知の低さをもって発信力の低さと位置づけるのは早計。グリーンインフラによる便益に満足度が得られていれば、実質としてグリーンインフラとしての評価が得られていると考えられる。タームの認知にとらわれると、緑化オタクの市民を増やすだけが目的になってしまう。</p>	<p>澤委員</p>
<p>家族や友人に市役所のサイトでアンケートに答えてみてほしいとお願いしてみましたが、質問項目が多く、自由回答欄や理由を書くのが面倒になってしまったということで、誰も最後まで答えてくれませんでした。ある程度簡単（質問項目が少ない）でないと、環境や緑に対する意識が高い人以外はアンケートに答えてくれないのかもしれないと感じました。また、決められた質問内容以外のところにさらに何かあるかもしれません。前回、蓑茂先生や田中先生がアンケート以外の方法でも意見や考えを集めることも考えたほうが良いとおっしゃっていましたが、確かにそうだと感じました。</p>	<p>福西委員</p>

## 5. その他意見

<p>○第1~3回は書面やWebでの会議で論議が十分に深化していない気がするが、第4回からは骨子案・体系案に基づいて、各項目ごとの具体案を提示していただき、その中で論議してはどうか。</p>	<p>内野委員</p>
<p>タイトルの熊本に暮らすクマモトグリーンクオリティプランは長すぎるし洗練さに欠けると僕は思います。</p>	<p>蓑茂委員</p>
<p>令和2年6月24日の熊本日日新聞「がまの穂通信」に、龍田にある樹齢100年以上のクスノキ伐採について書かれていました。1件の苦情があり伐採が決まったが、ご神木かもと言われて保留になったというものです。「熊本の緑に満足している人は何も言わないが、1件の苦情だけで伐採が決まってしまう。」と書かれていて、この緑の基本計画の重要性、行政内の周知や市民の理解の必要性などを再認識いたしました。</p>	<p>伊東委員</p>
<p>○地域（重点地区）におけるさまざまな"魅力的"な"楽しい"取り組みに対してクラウドファンディングなどを活用して展開することも考えられます。</p>	<p>岩佐委員</p>
<p>○熊本市が象徴としている市木はいちょう。市花は肥後ツバキ。県木は楠。県花はりんどう。これを知っている人は少ない。この樹木を市内の随所に植えて並木道にする。市民の皆さんにも、熊本市象徴の木、花。県の木、花の啓蒙も必要か。 ○熊本市のマンホールには、肥後ツバキの絵が描かれている。</p>	<p>大川委員</p>
<p>○緑の質とは何か、この委員会における主題・命題として、委員間の意見交換から、その本質に迫ることが重要である。 ○量的拡大・保全のマインドセットが、行政にも各主体にも根付いているため、考え方をパラダイムシフトさせる必要があるのではないか。</p>	<p>澤委員</p>
<p>私は県外出身者ですが、熊本市は緑豊かで公園や緑地が多くあると感じています。でも残念なのがせっかくできた緑地が管理不足からか、少し荒れて見えることがあります。これからは新たに緑地等を作るよりも、今あるものを丁寧に育てていくことが予算の面からもいいのではないかと思います。しかし維持管理にもお金はかかります。初期整備は必要になりますが、ナチュラルスティック・ガーデンを熊本市でも導入を検討してみるのもいいのではないかと思います。ニューヨークのハイラインのナチュラルスティック・ガーデンは大人気で、地元の人だけでなく多くの観光客も集めていると聞きました。日本でも青山地区の道路植栽に取り入れられています。</p>	<p>福西委員</p>